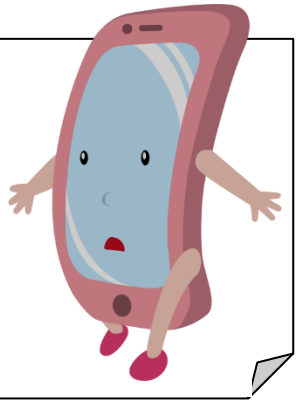
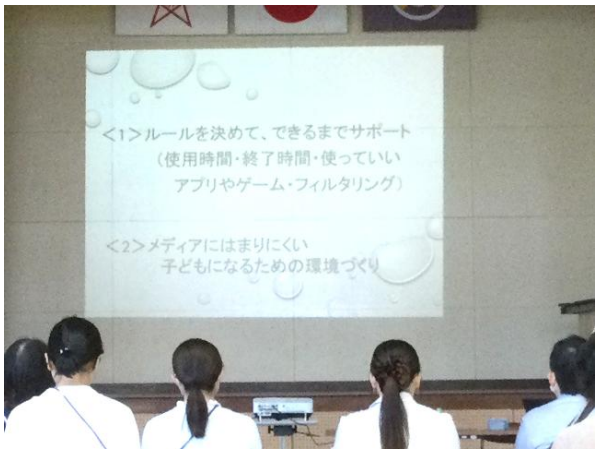
長崎市立大園小学校　校長室だより　Ｎｏ117

11月 今日の一言



８．１１．４　校長　渕上　卓也

メディアの話



先週、学校保健委員会主催の講演会が開かれました。**長崎県メディア安全指導員の　中野高子　先生**をお招きし、５．６年生児童には**「メディアのことちゃんと知ってる！？～こわいことにまきこまれないために、知っておきたいこと～」**　また、保護者の皆様には**「なぜ子どもはスマホにハマる！？その仕組みを知って、親子でできる対策を考えてみませんか。」**と題し、ご講演をいただきました。

今回講演を依頼したのは、ご多分に漏れず**大園小学校においてもネットトラブルが頻発**しているからです。**これが表に見えてこない**ものだから、我々が認識するまで時間がかかり、**解決までかなりの労力を費やしている**のです。**「そんなにトラブルが起こるのなら、持たせなければいいのに･･･。」というのが、渕上の本音**です。**「持たせる。」「持たせない。」は、保護者の判断**ですからね。でも、現代社会において、「持たせない。」という判断は難しいのも事実です。**「持たせる。」ならば、保護者の責任の下しっかり管理していただくこと**を切に願います。**「持たせっぱなし！！」「与えっぱなし！！」**になりませんように。

さて、講演の話に戻りましょう。保護者の皆様は、**「ドパガキ」という言葉**をご存じですか？渕上は知りませんでした。そこで、生成ＡＩ先生にお尋ねしたところ、**「ドパガキとは、ショート動画やゲームなどの刺激の強いコンテンツに慣れて、常に強い刺激を求めるようになり、集中力が続かなくなる若年層を揶揄するインターネットスラングです。」**との丁寧な回答をいただきました。**「ドパ」は「ドーパミン」、「ガキ」は「ガキ大将のガキ（子ども）」**みたいです。中野先生が子どもたちに尋ねたところ、**みんな大きな声で「ドパガキ」**と答えたものですから、**「もしかしたら、憧れているの？」と思ってしまった渕上**です。よくよく聞けば**「ヤバい！『ドパガキ』になっているかも・・・」と、とても不安に思っている様子。**もう一つ生成ＡＩ先生に聞きました。**「ドーパミンとは、脳内で分泌される神経伝達物質の一つです。意欲ややる気、快感、達成感、そして運動機能の調節など、心と体の働きに深く関わっています。」**との回答でした。本来ならば、**「時間をかけてやり遂げた！！」「難しかったけれど、がんばってできるようになった！！」「けんかもしたけれど、みんなと仲良く活動ができた！！」「心に残る素敵な本をゆっくり読んだ！！」・・・そういった刺激から作動するドーパミン、まさに「やる気スイッチ」**ですね。

ゲームや動画からの「やる気スイッチ」だけでなく、**学校や家庭での生活の中で「自分で自分をほめる。」の取組からも、「やる気スイッチ」**を作動させていきましょう！！

＜今日の一句＞
ドパジジに
ならないように
気を付ける　卓也





